**第165回ぺん川柳　お題「玉（たま、ぎょく）」　　世話人：平尾富男（酔深）**

**日時＝平成３０年１月２６日(金)（2018年** **初の句会）**

**（\*印は今月の互選句、\*は最優秀句）**

**１.「玉乗りかふらつき転（こ）けそう大統領」（井波）**

米国大統領の危なげな仕事振りに心配し、まるでサーカスの玉乗りをし見ているようだとは言い得て妙です。でも作者の心は「こけそうでこけない」と見ています。楽天的で前向きなのです。

**２．「シャボン玉割れて消えてく俺の夢」（我々好）**

童謡のように「シャボン玉飛んだ天まで飛んだ」とはいきません。作者の夢も弾けてしまうのです。これが人生です。世話人の夢「ジャンボ宝くじ」、今月も夢と弾けました。

**３．「いい玉と言われて喜ぶ玉でなし」（損得）**

「いい玉」は悪い意味で言う場合が普通のようですが、楽天家の作者は

　褒められたと思っているのです。喜ばなくて正解でした。

**４．「金の玉日の丸にさし金狙え」（安兵衛）**

敢えて世話人はこの句の解釈をしません。人によって解釈は別れる？　それとも、誰が考えても作者と同じでしょうか？

**\*５．「玉の輿姑隠居で爪を研ぎ」（鬼瓦）**

大金持ちの家に婿養子に入ったのはいいけれど、怖いお姑さんが待っていたとは！

**６．「初登庁玉虫色の晴れ着付け」（火酒）**

　小池百合子東京都知事を詠みました。でも、あの人余り「晴れ着」は似合いませんね！

**\*７．「初詣ご縁を祈る五円玉」（我々好）**

　駄洒落川柳ですが、実際に初詣に素晴らしいご縁を願って五円玉を投げ入れる参詣人は少なからずいると聞きます。作者も新しいご縁を切に願って五円玉を投げ入れたのです。ご利益は最優秀句に選ばれた、万歳！

**８．「なぜ王と玉があるのと孫の問い」（零門）**

識者の零門さんは「経験の浅い若い”王”が艱難辛苦を乗り越えて徳の象徴である宝物”玉”を獲得する」とお孫さんに答えたかどうかは知りませんが、そんな説があるようです。だから、下手は”王”で上手は”玉”ということになるんですね。知ってましたか？

**９．「玉やニャーどっちがお好き鍵やワン」（安兵衛）**

花火の「玉屋～、鍵屋～」を猫と犬に掛けましたが……。

**１０．「悪玉を集めて繁盛裏街道」（不言）**

世話人のような良玉は裏街道では通用しません。

**１１．「玉の輿乗せた筈だが尻の下」（酔深）**

折角玉の輿に乗せてあげたのに、いつの間にか尻の下に敷かれていると

いう情けない男の話です。Who is it ?

**１２．「いい玉と思ったばかりに美人局（つつもたせ）」（だし）**

こりゃいい女だと喜んでいたら、美人局だったと臍を噛んでいます。

**１３．「お年玉ババの財布で孫訓示」（鬼瓦）**

祖母からお年玉をもらった孫が、偉そうな態度で周囲を睥睨している。

**１４．「寝屋に置く純潔の白翆玉白菜」（晃二）**

上五の元句は「寝宮に」でしたが添削されました。「翆玉白菜」とは、台湾の故宮博物院の宝物。歴史的には貴人の閨房に置かれた。

**\*１５．「玉の輿三日たたずに追い出され」（不言）**

折角玉の輿に乗ったのに、三日も経たない内に追い出されてしまったというのです。強いお姑さん？　何かやらかしたのでしょうね。

**１６．「玉代を払えず今宵もツケでふけ」（酔深）**

金も無いのに吉原遊郭に上って、ツケで帰るとは。でも、ツケが効くというのは大したもんですよね。でも、最後は身上潰すんですよね。嗚呼！

**１７．「玉石の石で通したわが人生」（酔雅）**

玉石混交の玉の方ではなかったから、一生を石で過ごしたと言うんです。

**１８．「美丈夫も田舎言葉が玉に瑕（きず）」（火酒）**

美貌の若者、立派な男が美丈夫なんです。我がクラブにはいません（泣）！

　玉というほどのものではありませんが、瑕のある人はいます！

**１９．「玉手箱開け鏡見る我愕然」（晃二）**

白髪になったことを言っているんでしょうね。玉手箱は関係ないのです。

**２０．「逆玉は後継ぎできてさようなら」（だし）**

お金持ちの家に嫁入りしたのはいいけれど、子供が出来たら御用済みになったというのです。嫁は要らぬが、後継ぎ欲しい！

**２１．「逆玉を蹴って倹（つま）しく５０年」（零門）**

　折角大金持ちの家に婿養子で入れたのに、今の嫁に惚れて貧乏暮らしを余儀なくされたという作者の歎き？　幸せならいいじゃないの……！

**\*２２．「パリジェンヌ藤田（フジタ）が描く玉の肌」（井波）**

二十世紀初頭パリで活躍し、「乳白色の肌」の裸婦像で有名になった画家藤田嗣治（[1886年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1886%E5%B9%B4)[11月27日](https://ja.wikipedia.org/wiki/11%E6%9C%8827%E6%97%A5)～[1968年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1968%E5%B9%B4)[1月29日](https://ja.wikipedia.org/wiki/1%E6%9C%8829%E6%97%A5)）を詠った博学ペン川柳詠み！の作品。

**\*２３．「来世ではちょっと乗りたい玉のこし」（酔雅）**

この世では乗れなかったと言ってますが、何の何の立派な玉の輿に乗っている作者なんです！　飛行機にも乗ってました。

**２４．「玉石も混交次第で役に立つ」（損得）**

要は自分に都合の好い相手を見付ければ世渡りは成功すると言っているんです。

出席：**山縣（安兵衛）、三春（火酒）、平尾（酔深）、稲宮（井波）、安藤（晃二）**

欠席：**岩崎**（不言）、**西川**（酔雅）、**富田**（鬼瓦）、**大野**（だし）、細谷（損得）、**松谷**（零門）、**浜田**（我々好）

**次回二月は、２月２３日（金）、お題「穴」での勉強会です。お手柔らかに！**